

2021年10月5日

公益社団法人日本分析化学会  
正会員 教育会員 維持会員代表者 各位

公益社団法人日本分析化学会  
役員等候補者選考委員会

## 代議員候補推薦並びに代議員としての立候補のお願い

公益社団法人日本分析化学会定款第14条及び公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則に基づき、2022年度及び2023年度の代議員候補（任期2年）の推薦のご案内及び立候補受付のお知らせをいたします。下記の定款並びに代議員選挙規則（各抜粋）をご覧ください。代議員候補者のご推薦（支部宛）または立候補（役員等候補者選考委員会宛）を奮ってお願いいたします。

ご推薦、または立候補いただいた方々のお名前は、機関誌「ぶんせき」1月号にて会員に通知し、正会員（名誉会員、永年会員、シニア会員を含む）、教育会員、維持会員代表者による投票を依頼します。

- 1) 代議員候補者の推薦方法：所属支部の正会員、教育会員、維持会員代表者の中から代議員として適当と思われる方（複数可）を2021年11月8日までに支部長宛に書面をもって推薦してください。
- 2) 代議員としての立候補方法：2021年11月8日までに役員等候補者選考委員長宛に書面をもって届け出てください。

## 公益社団法人日本分析化学会定款（抜粋）

- 第14条 学会の社員は、正会員、教育会員及び維持会員の中から選出された90名以上130名以内の代議員をもって「一般法人法」の社員とする。
- 2 代議員を選出するため、正会員、教育会員及び維持会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な細則は理事会において別に定める。
  - 3 代議員は、正会員、教育会員及び維持会員の中から選ばれることを要する。正会員、教育会員及び維持会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。
  - 4 第2項の代議員選挙において、正会員、教育会員及び維持会員は他の正会員、教育会員及び維持会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。
  - 5 第2項の代議員選挙は、2年に1度、1月に実施することとし、代議員の任期は、選任の2年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。（以下中略）
  - 11 会員の資格を喪失した場合には、代議員の資格を喪失する。

## 公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則（抜粋）

（代議員選挙の管理）

第4条 代議員選挙は、選考委員会の管理のもとで行う。

（代議員支部推薦候補者の選考）

第5条 支部は、支部所属の正会員、教育会員及び維持会員の中から候補者を推薦できるものとする。

- 2 支部は前項の推薦をするにあたっては、広く支部所属の正会員、教育会員及び維持会員に推薦希望の有無を募らなければならない。
- 3 支部長が、会長に推薦する代議員候補者中には、当年度の役員及び支部長であって退任する者及び次期支部長を含むことができる。

（代議員支部推薦以外の立候補者の届け出）

第6条 正会員、教育会員及び維持会員のうち、代議員に立候補しようとする者は、自薦または正会員、教育会員及び維持会員の推薦により、選考委員会に、その定める締切日までに届け出る。

## (代議員選挙の方法)

- 第7条 各支部の推薦候補者数は、当該支部に所属する年度初めの正会員、教育会員及び維持会員の数を勘案の上、選挙のつど理事会が決定し、選考委員会に通知する。
- 2 選考委員会は、正会員、教育会員及び維持会員に対して機関誌による広告により代議員選挙を案内し、立候補者を募集する。選考委員会は、各支部に代議員選挙を案内する。
  - 3 選考委員会は支部推薦候補者を機関誌の広告により各支部の正会員、教育会員及び維持会員に周知させ、支部推薦以外の立候補者を同様の方法により全正会員、教育会員及び維持会員に周知させる。
  - 4 支部推薦によって選出された代議員が、その選出された支部から別の支部に所属を変更した場合でも、選出された支部の定数に含まれるものとする。

## 立候補届出先

役員等候補者選考委員会

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2-304 (公社)日本分析化学会内

## 推薦届出先

役員等候補者選考委員会 同上

北海道支部 〒002-8502 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1 北海道教育大学札幌校 化学教室内  
東北支部 〒960-1296 福島市金谷川 1 福島大学共生システム理工学類分析化学 研究室内  
関東支部 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学理工学部分析化学 研究室内  
中部支部 〒460-0011 名古屋市中区大須 1-35-18 一光大須ビル 7F (公財)中部 科学技術センター内  
近畿支部 〒550-0004 大阪市西区鞠本町 1-8-4 (一財)大阪科学技術センター内  
中国四国支部 〒739-8526 東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院先進理工学系化学 研究科(基礎化学プログラム)分析化学研究室内 分析化学研究室  
九州支部 〒869-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 熊本大学大学院 先端科学研究部

[補足] 新法人下における代議員については、代議員が法律上の社員となることのできる下記の 5 要件を満たしていなければなりません。これらに留意して作成された学会定款並びに代議員選挙規則により適正に選出されることが求められています。

[5 要件] ①「社員」(代議員)を選出するための制度の骨格が定款で定められていること、②各会員について「社員」を選出するための選挙(代議員選挙)で等しく選挙権及び被選挙権が保障されていること、③「社員」(代議員)を選出するための選挙が理事及び理事会から独立して行われていること、④選挙された「社員」(代議員)が責任追及の訴え、社員総会決議取消の訴えなど法律上認められた各種訴権を行使中の場合には、その間、当該社員(代議員)の任期が終了しないこととしていること、⑤会員に「社員」と同等の情報開示請求権等を付与すること。

以上

## (公社)日本分析化学会・分析士初段試験における筆記試験を免除されている事業における合格者の救済措置

上記、分析士初段認試験がコロナ禍により2020年度は中止となり、2021年度についても実施できるかどうかが不明確なため、下記の事業における合格者については、合格年度によらず2021年度の当該分析士初段試験の実施の有無に関わらず、初段認定の申請を受け付けることにします。申請先の初段認証専門委員会で確認後、初段段位授与可能者には初段試験受験料等の振り込み方法をお知らせいたします。

- 主催：(公社)日本分析化学会関東支部  
事業名：機器分析講習会(第2コース HPLCとLC/MSの基礎と実践)における支部試験  
対象種別：液体クロマトグラフィー分析士、LC/MS分析士
  - 主催：(公社)日本分析化学会九州支部  
事業名：HPLC講習会における支部試験  
対象種別：液体クロマトグラフィー分析士
  - 主催：(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会  
事業名：LC- & LC/MS-DAYsにおける修了試験  
対象種別：液体クロマトグラフィー分析士、LC/MS分析士
- 初段認定申請方法 ①事業名と年度、②分析士の対象種別、③合格証の番号、④氏名、⑤所属、⑥連絡先メールアドレス、を明記して下記いずれかの申請先にご連絡ください(受付期限：2021年11月30日)。
- 申請先 2021年度LC分析士初段認証専門委員会または2021年度LC/MS分析士初段認証専門委員会〔E-mail: nakamura@jsac.or.jp〕

## 第37回分析化学における不確かさ研修プログラム —受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会  
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきました。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるように演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする、

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

期日 12月16日(木)・17日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町駅」芝浦口(東口)から徒歩約13分又は都営浅草線・都営三田線「三田駅」A4

(JR 田町駅方面) 出口から徒歩約15分)

アクセス [https://www.jemic.go.jp/kihon/m\\_honsha.html](https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html)  
対象者

- ・不確かさの計算方法を初歩から学びたい方
- ・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1 (JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられる様々な確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因を考察するグループ演習)
11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)

第2日(9.30~16.30)

12. 初日のおさらい
13. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)
14. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
15. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
16. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
17. 演習：間違い探し
18. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
19. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
20. まとめ

募集定員 20名(定員に達し次第、締め切ります)。

申込締切 12月9日(木)

受講料 会員63,800円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外74,800円

※昼食、テキスト代を含みます。消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことの受講証明書を主催団体から発行します。

申込方法

日本電気計器検定所のホームページ([https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j\\_keisoku.html](https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html))から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込により取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的

のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。① JEMIC 計測技術セミナーに関するお知らせ、② 各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③ 定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

#### 問合せ先

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-15-7 日本電気計器検定所 JEMIC 計測技術セミナー事務局 (担当: 長谷川) [電話: 03-3451-1205, E-mail: kosyukai-ky@jemic.go.jp]

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (公社) 日本分析化学会不確かさセミナー係 [電話: 03-3490-3351, FAX: 03-3490-3572, E-mail: koms@jsac.or.jp]

## 第 26 回高分子分析討論会 (高分子の分析及びキャラクタリゼーション) —参加募集—

主催 (公社) 日本分析化学会高分子分析研究懇談会  
協賛 (公社) 日本化学会、(公社) 高分子学会ほか

期日 10 月 28 日 (木)・29 日 (金)

会場 オンライン開催 (Webex を利用)

主題 高分子分析・特性解析全般に関する討論です。高分子分析は物性発現機構を解明し、構造設計の指針を得る基盤であり、その重要性への認識は高まっています。高分子分析・キャラクタリゼーションを対象とした本討論会の内容は、化学的手法、分光学的手法、各種クロマトグラフ法、熱分析法などによる組成、分子構造、高次構造、構造と物性の相関、物性発現機構、重合機構等の解析に関する基本原理、手法開発、解析事例などに及びます。

内容 一般参加者によるショートプレゼンおよびポスター発表に加えて、協賛企業によるテクニカルレビュー、および特別講演 2 件を予定しております。

#### 討論会プログラム

##### 第 1 日 (10 月 28 日)

開会挨拶 (9.50~10.00)

ショートプレゼン I (10.00~10.50)

テクニカルレビュー I (企業講演 I 10.50~11.05)

ポスター発表 I (11.05~12.35)

休憩

特別講演 I (13.30~14.30)

「SDGs の観点からプラスチック問題を考える」

永井一清先生 (明治大学理工学部)

ショートプレゼン II (14.50~15.40)

テクニカルレビュー II (企業講演 II 15.40~15.55)

ポスター発表 II (15.55~17.25)

オンライン懇親会 (19.30~21.00, 予定)

##### 第 2 日 (10 月 29 日)

ショートプレゼン III (10.00~10.50)

ポスター発表 III (10.50~12.20)

休憩

特別講演 II (13.30~14.30)

「多変量解析の再現性確保と脱ブラックボックス化の試み～近赤外分光法による食品品質評価を例に～」

葛 瑞樹先生 (国立研究開発法人農研機構)

ショートプレゼン IV (13.50~14.40)

ポスター発表 IV (14.40~16.10)

閉会挨拶 (16.20~16.30)

#### ショートプレゼンおよび及び発表 I

I-1 イオンモビリティを用いたエポキシ樹脂の反応挙動解析 (東レリサーチセンター, 名工大) ○上松あずさ, 小野田資, 塩路浩隆, 北川慎也, 大谷 肇

I-2 機械的分解を用いたコアシェル型グラフトゴムのグラフト鎖分析, (三菱ケミカル) ○前中佑太, 先田はるか, 新井啓矢

I-3 オンプレート分解を用いた MALDI-MS によるポリウレタンの構造解析 (東レリサーチセンター) ○田口嘉彦, 森脇博文, 日下田成

I-4 グラジエント溶離 HPLC を用いたポリマーの分析条件の検討 (アジレント・テクノロジー) ○熊谷浩樹, 野上知花, 澤田浩和

I-5 緩和試薬を用いたフェノール樹脂硬化物の固体 <sup>13</sup>C-NMR 測定時間の短縮 (住ベリサーチ) ○岡本隆志

I-6 カーボン材料によるラマンスペクトルの蛍光低減 (豊田中研) ○前山未来, 安孫子勝寿, 加藤雄一, 須藤栄一

I-7 試料表面に着目した紫外線照射によるポリエチレンテレフタレートフィルムの劣化初期の分析 (日本電子, 産総研) ○佐藤貴弥, 作田裕介, 中山智香子, 窪田 梓, 中村清香, 渡邊亮太, 山根祥吾, 佐藤浩昭, 上田祥久

I-8 セルレース系ポリマーの劣化解析 (神奈川大理工) ○大城てつや, 大石不二夫, 西本右子

I-9 γ線照射前後の材料劣化解析 (東レリサーチセンター) ○安田周平, 大橋晃子, 小野田資, 塩路浩隆

I-10 マイクロプラスチックにおける表面からの光劣化進行状態の解析 (東ソー分析センター, 京大院地球環境学堂) ○生田久美子, 高尾和也, 松本良憲, 雪岡 聖, 片岡弘貴, 田中周平

I-11 熱分解-ガスクロマトグラフ/マルチ検出器によるポリマー熱分解生成物の定性定量同時分析 (東北大院環境) ○生田大地, 熊谷将吾, 亀田知人, 齋藤優子, 吉岡敏明

I-12 LC/MS を用いた UV 硬化材料の組成解析 (アジレント・テクノロジー) ○野上知花, 穂坂明彦, 澤田浩和

I-13 熱分解-GC/MS によるフィルタ材料中の四級アンモニウム塩の分析 (アジレント・テクノロジー) ○加賀美智史, 穂坂明彦, 中村貞夫

I-14 熱分解 GC/MS を用いたマイクロプラスチックの定量分析における分析条件の検討 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○石村敬久, 渡辺忠一, 寺前紀夫, 大谷 肇

I-15 環境試料中の微量マイクロプラスチックの分析におけるスプリットレス熱分解 GC/MS 法の適用 (その 1) スプリットレス熱分解装置を用いる測定条件の検討 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○鄭 甲志, 渡辺忠一, 寺前紀夫, 大谷 肇

I-16 環境試料中の微量マイクロプラスチックの分析におけるスプリットレス熱分解 GC/MS 法の適用 (その 2) ポリスチレン分析への応用 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○松枝真依, 渡辺忠一, 渡辺 壺, 寺前紀夫, 大谷 肇

#### ショートプレゼンおよび及び発表 II

II-1 環境試料中の微量マイクロプラスチックの分析におけるスプリットレス熱分解 GC/MS 法の適用 (その 3) ポリエチレン分析への応用 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○佐藤真純, 渡辺忠一, 渡辺 壺, 寺前紀夫, 大谷 肇

II-2 環境試料中の微量マイクロプラスチックの分析におけるスプリットレス熱分解 GC/MS 法の適用 (その 4) 底質試料中の微量マイクロプラスチック分析における課題と対策 (フロンティア・ラボ, 東北大, University of Oldenburg, 名工大) ○石村敬久, 渡辺忠一, 寺前紀夫, Barbara Scholz-Boettcher, 大谷 肇

II-3 熱分解 GC/MS を用いたマイクロプラスチック試料の定性解析ソフトウェアにおける確度向上の検討 (フロンティア・ラボ, 群馬県立繊維工業試験場, 東北大) ○松井和子,

- 小松秀和, 渡辺 昶, 渡辺忠一, 寺前紀夫
- II-4 加熱下および燃料膨潤下におけるポリオキシメチレンの高次構造解析(ポリプラスチック)○永尾達彦, 八木敦史, 神田裕基, 川口邦明
- II-5 熱脱着・熱分解 DART-MS を用いたトリブロックコポリエーテルのブロック構造評価(産総研, 日本電子, バイオクロマト)○山根祥吾, 中村清香, 井上亮太, Thierry N. J. Fouquet, 佐藤貴弥, 木下一真, 佐藤浩昭
- II-6 液体試薬をヘリウムパージ導入する CI 法の検討—その特徴と試薬ガスを用いる従来法との比較(アジレント・テクノロジー)○小笠原亮, 穂坂明彦, 加賀美智史, 中村貞夫
- II-7 固体 NMR を用いたシリコンゴムの架橋構造解析(住ベリサーチ)○池田延之, 権藤 聡
- II-8 シアノアクリレート系接着剤の硬化後試料の識別(埼玉県警察本部刑事科学捜査研究所)○大友紳太郎
- II-9 2D-LC によるポリマー中添加剤の一斉分析(三菱ケミカル)○小西利恵, 田部井徳鷹
- II-10 Py-GC-高分解能 TOFMS と KMD 解析を組み合わせたポリプロピレンの酸化劣化評価(産総研)○中村清香, Thierry Fouquet, 渡邊亮太, 山根祥吾, 菅原明希, 萩原英昭, 佐藤浩昭
- II-11 走査電子顕微鏡 (SEM) を用いた高分子材料表面の劣化解析(日本電子)○作田裕介, その他
- II-12 太陽電池モジュール封止材の湿度制御下における紫外線劣化解析(東北大院環境科学, フロンティア・ラボ, 東北大院理学)○小林大樹, 熊谷将吾, 白鳥寿一, 亀田知人, 齋藤優子, 進藤 章, 渡辺 昶, 寺前紀夫, 渡辺忠一, 吉岡敏明
- II-13 新型多角度光散乱検出器 (MALS) を用いたポリマーの分子量評価(東ソー分析センター)○香川信之, 生田久美子, 松本良憲
- II-14 Py/TD-GC/MS を用いたフタル酸エステル, PBBs, PBDEs 一斉スクリーニング法の定量データベースによる簡便化(島津製作所)○工藤恭彦, 初 雪, 大林賢一, 中川勝博, 田中幸樹
- II-15 IA/MS によるハイブリッドロケット用固体燃料の熱分解挙動の評価(千葉工大院, 産総研, 神戸工業試験場, 型善, ISAS/JAXA)○藤原克昭, 坂野文菜, 和田 豊, 津越敬寿, 三島有二, 加藤信治, 堀 恵一
- II-16 GCxGC-TOFMS を用いた自動車内装材および自動車室内のにおい分析(LECO ジャパン)○樺島文恵
- ショートプレゼンおよび及び発表 III
- III-1 ポリエチレングリコールを含有するメチルセルロースヒドロゲルに対する塩の影響 (2) (神奈川大理学)○芹澤咲耶, 左古有美香, 西本右子
- III-2 官能基誘導体法を用いた樹脂の組成分布解析(関西ペイント)○堀家直樹
- III-3 熱分解 GC/MS および高分解能 MALDI-MS によるクチナシ青色素の分子構造解析(名工大院工, 中部大応生, 三栄源エフ・エフ・アイ)○本多 亘, 大谷 肇, 石田康行, 堤内 要, 西野雅之, 西山浩司, 五百磐稔, 石橋 諒
- III-4 ESI-IMS-MS と KMD 法を用いた St/MMA/nBA コポリマーの解析(名工大院工, 三菱ケミカル)○尾関優香, 北川慎也, 大谷 肇, 近藤洋輔, 品田弘子
- III-5 エレクトロスプレーイオン化イオンモビリティタンデム質量分析法によるポリオキシメチレンの末端構造解析(名工大, ポリプラスチック)○森本雄貴, 北川慎也, 大谷肇, 川口邦明, 阿久津裕明
- III-6 DART-MS を用いた樹脂中添加剤の直接分析における効率化の検討(日本電子)○橋本将宏, 佐藤貴弥, 上田祥久
- III-7 TLC-LDI-TOFMS におけるポリイソプレンのイオン化メカニズムの解明および脱離効率向上に関する検討(名工大)○入船僚太, 石川敬直, 飯國良規, 北川慎也, 大谷 肇
- III-8 インバース型 diffusion プローブを用いた標準ポリスチレン混合サンプルの DOSY 測定(徳島大院理工, 高分子 DOSY コンソーシアム)○高松京祐, 松下宏幸, 平野朋広, 右手浩一
- III-9 インバース型 diffusion プローブを用いたエチレンプロピレンジエンゴムの DOSY 測定(徳島大院理工, 高分子 DOSY コンソーシアム)○松下宏幸, 徳田規紘, 平野朋広, 右手浩一
- III-10 窯業系サイディングの熱処理による水蒸気吸着特性変化(群馬県立群馬産業技術センター, ベスト資材)○恩田紘樹, 黒崎紘史, 瀬賀悟史, 杉山乃祐, 佐藤和則
- III-11 熱分解 GC/MS を用いた ABS 樹脂成型品における不良品解析(フロンティア・ラボ, 東北大)○塩野 愛, 押野博二, 渡辺 昶, 寺前紀夫, 渡辺忠一
- III-12 LC-MS/MS 法を用いたプラスチック製品中塩素化パラフィン類の分析(アジレント・テクノロジー, 国環研資源循環)○滝埜昌彦, 松神秀徳, 梶原夏子
- III-13 メチルアミン CI 法を用いた熱分解 GC-MS による汎用ポリマーの分析(DIC)○森 大樹, 打矢裕己
- III-14 高分解能 MALDI 及び主成分-KMD プロットによるポリマーの劣化診断(産総研)○新澤英之, 中村清香, 萩原英昭, 水門潤治, 渡邊亮太
- III-15 ポリマーフィルム中における希土類錯体の UV 劣化挙動解析(東ソー分析センター)○中西健太, 松藤嵩明
- III-16 最新の高分解能 GC-TOFMS を用いた材料分析における 2 つのアプローチの検討~熱分解-GC-MS 法による差異分析と FD 法による迅速分析~(日本電子)○福留隆夫, 窪田 梓, 生方正章, 上田祥久
- III-17 高分子精密特性解析のための新しい SEC-MALS セットアップ法の提案(東ソー分析センター, 山形大院有機, 山形大工)○松本良憲, 菊地守也, 川口正剛
- ショートプレゼンおよび及び発表 IV
- IV-1 分岐高分子における異常な SEC 溶出挙動の解明(東ソー分析センター, 山形大院有機, 山形大工)○松本良憲, 菊地守也, 川口正剛
- IV-2 熱分解分析法によるアルミナ共存下におけるシランカップリング剤の反応解析(名工大, 住友電気工業)○村松知沙子, 大谷 肇, 徳田千明, 土子 哲
- IV-3 レーザー脱離イオン化質量分析法によるパーフルオロポリエーテルの構造解析(名工大)○三枝和真, 大谷 肇
- IV-4 エレクトロスプレーイオン化-イオンモビリティ質量分析法によるパーフルオロポリエーテルの構造解析(名工大院工)○國枝政洋, 北川慎也, 大谷 肇
- IV-5 質量分析によるハードディスク潤滑剤パーフルオロポリエーテルの末端基分析(Bruker, Moresco, 関西大学)○工藤寿治, 森 美詞, 清水 豪, 井上 文, 谷 弘詞
- IV-6 DIUTHAME による試料表面の分析のための転写方法の検討(日本電子)○渡邊直美, 佐藤貴弥, 奥田晃史, 上田祥久
- IV-7 オプティカル光熱変換赤外分光法(O-PTIR)の加熱その場測定によるヒートシール最適温度の推定(日本サーマル・コンサルティング)○馬殿直樹
- IV-8 標準ポリマー混合サンプルの DOSY 共通測定(徳島大院理工, 高分子 DOSY コンソーシアム)○右手浩一, 秋元隆史, 石田明子, 井本朗暢, 漆原 紅, 大磯佑介, 桑原知彦, 古賀慎一郎, 芝谷治美, 原 優月, 平野朋広, 高松京祐, 牧野麗子, 松川隆幸, 松下宏幸, 吉田 健
- IV-9 インバース型 diffusion プローブを用いた高分子量アクリルアミド共重合体の DOSY 測定(徳島大院理工, 栗田工業)○渡邊一橋, 松下宏幸, 高松京祐, 右手浩一
- IV-10 GCxGC-TOFMS によるアクリル系接着剤の揮発性成分の分析(LECO ジャパン)○松神麻美, 樺島文恵
- IV-11 四重極型 GC-MS 専用統合定性解析ソフトウェアの

開発と応用例(日本電子)○窪田 梓, 久保 歩, 長友健治, 生方正章

IV-12 有機材料中の微量硫黄分定法の確立(群馬産業技術センター)○綿貫陽介

IV-13 フッ素系エラストマーの熱分解機構の研究(東京農工大院)○後藤俊太郎, 上谷文宏, 野口 剛, 太田大助, 赤井伸行

IV-14 EGA-MS-PCA 法によるエポキシ樹脂の熱酸化劣化解析(北大院工, 産総研)○石田崇人, 渡邊亮太, 水門潤治, 萩原英昭, 北垣亮馬

IV-15 DIUTHAME を用いた MALDI-TOFMS によるポリカーボネートの劣化生成物の分析(神奈川県立産総研, コマツ)○村上小枝子, 吉川 萌, 秋元治人

IV-16 熱分解-GC/MS を用いた UV 硬化材料の組成解析(アジレント・テクノロジー)○穂坂明彦, 野上知花, 中村貞夫

IV-17 非塩素系有機溶媒を移動相とした高温 SEC 測定の検討(東ソー)○熊谷周治, 芳賀悠人, 伊藤誠治, 中田文弥  
本プログラムは今現在の予定であり, 最終的に変更が生じる場合もあります。

参加費(非課税) 事前登録: 一般 8,000 円, 学生 2,000 円。  
オンライン開催のため, 参加には必ず事前登録が必要です。

参加予約方法 参加希望者は参加登録を高分子分析研究懇談会ホームページから 10 月 16 日までにお申し込みください。

参加費の振り込みが確認された参加者の皆様に 10 月 20 日(水)を目安に参加に必要な URL 等を送付致します。

振込口座 りそな銀行 五反田支店 普通 1330829 (公社) 日本分析化学会高分子分析討論会

参加予約申込 10 月 16 日(土)までにホームページ上で行ってください。なお, 入金された費用については, 参加の有無に関わらず, 返金できませんので, ご了承願います。

申込先 高分子分析研究懇談会ホームページ (<http://www.pacd.jp/>)

問合せ先 〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1 明治大学理工学部 本多貴之 [電話: 044-934-7212, E-mail: t-honda@meiji.ac.jp]

## 2021 年度日本分析化学会九州支部講演会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会九州支部

九州支部講演会

期日 11 月 1 日(月) 16.00~17.30

会場 熊本大学黒髪南キャンパス 工学部百周年記念館 [熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1]

会費 無料

講演

1. 「小角中性子散乱法による二成分溶媒の状態分析とその反応場としての特性」(佐賀大理工学部教授)高椋利幸  
(2020 年度九州分析化学会賞受賞講演)

2. 「高選択的な蛍光誘導体化法の開発とその分析化学的利用」(福岡大薬学部教授)能田 均  
(2021 年度九州分析化学会賞受賞講演)

\*コロナ感染状況をみて, 直前にオンライン開催に切り替える判断をさせていただくこともありますので, 予めご了承ください(支部 Website にてアナウンス)。

九州支部見学会(中止)

コロナ感染のリスク低減の観点から, 中止といたします。

参加申込締切 10 月 15 日(金)

問合せ先 〒860-0082 熊本県熊本市西区池田 4-22-1 崇城大学工学部ナノサイエンス学科 水城圭司 [電話: 096-326-3626, E-mail: mizuki@nano.sojo-u.ac.jp]

## 第 34 回新潟地区部会研究発表会

—プログラム—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部・同新潟地区部会

期日 11 月 12 日(金) 13 時から

会場 Web 開催(新潟薬科大学)

<https://sites.google.com/view/jsac-niigata-2021/>

プログラム

13.00~13.05

開会の辞 川田邦明 新潟地区部会長(新潟薬科大)

支部長挨拶 山本博之 関東支部長((国研)量子科学技術研究開発機構)

13.05~13.50

特別講演(座長 新潟薬科大学 佐藤眞治)

量子ビームと分析化学

((国研)量子科学技術研究開発機構)○山本博之

14.00~15.30

一般講演(座長 新潟薬科大 小瀬知洋)

講演 1 超音波照射による活性酸素種生成の検出とそのマイクロバブル共存効果(長岡高専専攻科物質工学専攻<sup>1</sup>・長岡高専物質工学科<sup>2</sup>)○土田一喜<sup>1</sup>, 村上能規<sup>2</sup>

講演 2 製品使用過程におけるタイヤリサイクル製品中の有害物質のバイオアクセシビリティ(新潟薬科大応用生命科学部)○白清永都子, 河内和也, 相馬莉佐, 大野正貴, 小瀬知洋, 川田邦明

講演 3 溶液化学の視点に基づく次世代の蓄電デバイス・金属電析に関する電解質開発(新潟大理学部<sup>1</sup>・山口大院創成科学研究科<sup>2</sup>・東京理大理工学部<sup>3</sup>)○韓 智海<sup>1</sup>, 藤井健太<sup>2</sup>, 永島 結<sup>1</sup>, 渡辺日香里<sup>3</sup>, 梅林泰宏<sup>1</sup>

講演 4 固体試料中の水銀測定手法の検討(上越環境科学セ)○南 創史, 長井友和, 渡邊幸久

講演 5 阿賀野川河口域における海底土の放射性セシウム濃度とその経年変化(新潟県放射線監視セ<sup>1</sup>・日環セアジア大気汚染研究セ<sup>2</sup>)○佐藤 高<sup>1</sup>, 四柳宏基<sup>2</sup>, 小林淳一<sup>1</sup>, 渡邊哲也<sup>1</sup>

講演 6 県内企業の分析ニーズへの対応(新潟県工技総研 下越技術支援セ)○山下 亮

15.40~16.30 (座長 新潟薬科大 大野正貴)

ポスターセッション

16.30~

閉会挨拶 川田邦明 新潟地区部会長(新潟薬科大)

表彰式

参加費 無料。事前下記からご登録ください。

<https://sites.google.com/view/jsac-niigata-2021/>

本年度は Web 開催のため懇親会は実施いたしません。

照会先 〒956-8603 新潟市秋葉区東島 265-1 新潟薬科大学応用生命科学部 小瀬知洋 [電話・FAX: 0250-25-5161, E-mail: tkose@nupals.ac.jp]

## 2021 北海道地区化学教育研究協議会

主催 (公社)日本化学会北海道支部, (公社)日本分析化学会北海道支部, (公社)日本化学会教育・普及部門

後援 北海道教育委員会, 札幌市教育委員会, 北海道高等学校長協会, 北海道小学校理科学研究会, 北海道中学校理科教育研究会, 北海道高等学校理科学研究会

期日 11 月 13 日(土) 10.30~16.30

開催方式 Zoom を用いた遠隔による実施(ウェビナー)(例年から変更)

参加申込締切 11 月 5 日(金)

内容

協議主題：「理科（化学）教育における小・中・高・大学での取組み」

特別講演：（演題未定）

（国立教育政策研究所教育課程調査官）神 孝幸氏

提言：「理科（化学）教育における小・中・高・大学での取組み」を4件ほど予定（提言20分、質疑応答5分程度）

自由討論：「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する討論」（1時間程度）

対象 小学校から大学までの教員、化学教育に関心のある大学院生

参加費 無料、懇親会：本年度は行いません。

参加申込方法 E-mail (FAXも可) で1. 氏名, 2. 所属, 3. 職名(学年), 4. 連絡先住所, 5. 電話番号を明記の上, 下記宛にお申し込みください(通信負荷の関係で早期に締め切りとなることありますが, 空きがあれば「当日参加」扱いで受け入れますので, 下記連絡先にお問い合わせください)。  
申込先 〒069-0834 江別市文京台東町42 北海道立教育研究所附属理科教育センター内 北海道地区化学教育研究協議会係 高橋伸元〔電話：011-386-4534, FAX：011-386-4977, E-mail: takahashi.nobuyuki3@pref.hokkaido.lg.jp〕

## 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第21回高山フォーラム

主催 (公社)日本分析化学会中部支部

協賛 日本分析化学会若手交流活動助成金

期日 11月13日(土)

会場 オンライン開催

目的 本フォーラムは、日本分析化学会中部支部の若手による企画「分析中部・ゆめ21」の一環として毎年開催されています。通常の学会発表とは異なる、若手ならではのユニークで形式にとらわれない学術交流の場の創作を目指しています。

内容 中部分析化学奨励賞授賞式、受賞講演、依頼講演、ポスター講演。

プログラム

午前の部 (9.00~12.00)

開会式

中部分析化学奨励賞授賞式

受賞講演 村上貴哉(石川県警)、眞塩麻彩実(金沢大学)

依頼講演 Mohamad Rafi(Himpunan Kimia Indonesia),

羽切正英(福島高専)

午後の部 (13.00~16.00)

ポスター講演

閉会式

定員 90名

ポスター講演募集締切・講演要旨集原稿締切・参加申込締切 10月29日(金)

参加申込方法 HP (<http://www.jsac.or.jp/~chubu/>) の表題セミナーのページにある【参加申込フォーム】にて Web から申し込みください。ポスター講演を申し込む方は、その際に講演要旨ファイル(pdf)を同フォームにて提出ください。

参加費 無料

問合せ先 〒939-8630 富山県富山市本郷町13 富山高等専門学校 間中 淳〔電話：076-493-5402, E-mail: takayama.f.2021@gmail.com〕

## 第365回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

ODS固定相は分離メカニズムが分かり易く汎用性が高い事

から最も使用されていますが、異なる ODS カラムへ交換しても思うように分離パターンが変わらない事があります。一方で各カラムメーカーからは様々な固定相が開発・販売されており、分離パターンやピーク形状の改善に有効な場合があります。本例会では、ODS 以外で困った時に持っている便利な固定相についてご講演いただきます。

期日 11月17日(水) 13.00~17.15

会場 Zoom オンライン例会

講演主題 “ODS 以外の便利な固定相”

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(Restek株式会社)海老原卓也(LC分析士二段)

1. ODS とフェニル系カラムの特徴と分離の違い(13.05~13.35)((一社)化学物質評価研究機構)坂牧 寛(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

2. 便利な固定相 Biphenyl, PFP & C18 などのご紹介(13.40~14.10)(株式会社クロマニックテクノロジー)長江徳和(LC分析士二段)

3. ODS を補完する HILIC 固定相の特性と応用(14.15~14.45)(東ソー株式会社)伊藤誠治(LC分析士五段, LC/MS分析士二段)

休憩(14.45~15.00)

4. 極性の分析種を効率良く測定するための新規ハイブリッドリガンドの利用(15.00~15.30)(Restek株式会社)渡邊一夫(LC分析士四段, LC/MS分析士初段)

5. 解離性化合物を分析するためのカラム選択(15.35~16.05)(日本ウォーターズ株式会社)島崎裕紀(LC分析士三段, LC/MS分析士二段)

6. 逆相系移動相で行うキラル分析(16.10~16.40)(信和化工株式会社)小林宏資(LC分析士三段, LC/MS分析士初段)

7. 総括「ODS 以外の便利な固定相」(16.45~17.15)(東京理科大学)中村 洋(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員1,000円、協賛学会(日本分析化学会、日本薬学会、日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員3,000円、その他4,000円、学生1,000円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円)。締切日のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 11月10日(水)(入金締切時刻:15時まで)

申込方法 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申し込みください。お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第365回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。

参加費の納入が確認できた方には、11月11日以降に①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/a7UNpV7iXCRZrU2d6>

銀行送金先 りそな銀行 五反田支店(普通)0802349、口座名義:シヤ)ニホンブンセキカガクカイ(公益社団法人日本分析化学会 液体クロマトグラフィー研究懇談会)

問合せ先 (公社)日本分析化学会 液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人: Restek株式会社海老原卓也〔E-mail: takuya.ebihara@restek.com〕

——以下の各件は本会が共催・協賛・  
後援等をする行事です——

学環境科学部 生物資源管理学科 第37回講演会実行委員  
長 飯村康夫 [E-mail: iimura.y@ses.usp.ac.jp]

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

## 2021年日本表面真空学会学術講演会

主催 (公社)日本表面真空学会  
期日 11月3日(水)~5日(金)  
会場 オンライン開催  
ホームページ <http://www.jvss.jp/>  
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル  
5階 (公社)日本表面真空学会 事務局 [E-mail: taikai  
2020@jvss.jp]

## 第242回西山記念技術講座

「最近の電気炉技術の進歩—平成30年を振り返る—」

主催 (一社)日本鉄鋼協会  
期日 11月12日(金)  
会場 オンライン開催  
ホームページ  
<https://www.isij.or.jp/event/event2021/nishiyama242.html>  
連絡先 (一社)日本鉄鋼協会 育成グループ[電話:03-3669-  
5933, FAX:03-3669-5934, E-mail: educact@isij.or.jp]

## 日本膜学会「膜シンポジウム2021」

主催 (一社)日本膜学会  
期日 11月16日(火)・17日(水)  
会場 オンライン開催 (Zoom)  
ホームページ  
<http://www.maku-jp.org/symposium/>  
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-26-5-702 日本  
膜学会事務局 [E-mail: membrane@mua.biglobe.ne.jp]

## VACUUM2021 真空展

主催 (一社)日本真空工業会, (公社)日本表面真空学会, (株)  
日刊工業新聞社  
期日 11月24日(水)~12月10日(金) (オンライン), 12  
月1日(水)~3日(金) (東京ビッグサイト)  
ホームページ  
<https://biz.nikkan.co.jp/eve/vacuum/>  
連絡先 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 日刊  
工業新聞社イベント事業部 「VACUUM 真空展」事務局  
[電話:03-5644-7221, FAX:03-5641-8321, E-mail:  
autumnfair@media@nikkan.co.jp]

## 日本腐植物質学会第37回講演会

主催 日本腐植物質学会  
期日 11月26日(金)・27日(土)  
会場 ピアザ淡海 (一部オンライン開催)  
ホームページ  
<https://www.research.kobe-u.ac.jp/ans-soil/jhss/>  
連絡先 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500 滋賀県立大

## 「分析化学」特集“分析試薬の可能性を探る”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、分析試薬研究懇談会と共同で「分析試薬の可能性を探る」と題した特集を企画しました。分析試薬は、あらゆる分析化学の方法論にとって、その能力を引き出すための必須の存在です。これまでも、例えばクロマトグラフィーや溶媒抽出における対象物質の検出、分離用試薬を始め、様々な試薬が分析化学を支えてきました。現在では、生命科学から環境分野まで、ありとあらゆる分析化学が関わる対象で、多彩な試薬がこれを支えています。今後、SDGsに代表される新しい社会に必須の研究と技術の発展に伴う新たな分析対象の広がりと共に、分析試薬もまた、従来とは次元が異なる発展を見せようとしています。このような背景に鑑み、本特集号では新規な分析試薬の開発はもとより、分析試薬を用いる新規な分析手法、試料の調製法、得られる情報の処理などに関する工夫や様々な応用例に関する論文の投稿をお待ちしています。詳細は「分析化学」誌ホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2021年10月22日（金）

## 「分析化学」編集委員会特集“分離分析の進展”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2022年度（第71巻）の「編集委員会特集」のテーマは、『高感度解析に寄与する分離分析技術』に決定いたしました。分析技術は種々の分野における基盤技術であり、新たなサイエンスを切り拓く原動力として重要な役割を果たしてきました。近年、質量分析装置の発展は目覚ましく、各分析機器メーカーから販売されている装置を購入すれば高感度かつ精密に、その質量を測定することが可能となっています。また、操作性、利便性、迅速性も格段に向上しており、もはや検出器として質量分析装置を用いることがスタンダードとなりつつあります。質量分析装置と同様に各検出器の感度も飛躍的に上昇していることを鑑みると、質量分析装置を含めた、これら最新の検出器に目的とする分析対象物をいかにして高純度に届けるかが課題として挙げられます。

上記状況に鑑み、本特集では、高感度解析に寄与する分離分析技術と題し、クロマトグラフィーや電気泳動などの分離分析を対象とした研究に着目することとしました。新たなサイエンスを切り拓くための分離技術、新素材での新しい分離様式およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。また、「若手研究者の初論文特集」への応募資格を満たしている方は、本特集論文と兼ねて投稿していただくこともできますので、若手の研究者の皆様のご投稿もお待ちしております。

詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページを参照ください。

なお、原稿締切日は12月3日（金）です。

## 「分析化学」年間特集“省”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画しており、2022年度は「省」をテーマとすることと致しました。

世界の総人口は現在約78億人となり、人々が健康で豊かに暮らしていくためには、限られた資源を有効に活用することが不可欠です。また、誰もが高度な科学技術や医療技術の恩恵を受けられるよう工夫することは、持続可能な開発の理念に資す

る、転じて我が国の近現代史を顧みますと、少ない資源の元での効率の良い技術開発はお家芸と表現しても過言ではなく、分析化学の分野においても、新しい分析方法・技術の開発や改良を通して、複雑化・多様化した現代社会に大きく貢献しているところではあります。

こうした背景から、本特集では「省」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「省」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2021年11月12日（金）（第2期）

## 初めて書く論文は母語の日本語で！ “第21回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2022年（第71巻）に第21回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

## 「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

\*上記に消費税がかかります。

## 「Analytical Sciences」別刷頒布価格のお知らせ

「Analytical Sciences」掲載の投稿論文の別刷頒布価格は下記のとおりです。

1. 頒布部数：50部を最小単位とし、以降50部単位で頒布します。
2. 価格：次の計算式に従って算出された値（円）。  

$$20000 + 2500 \times p + 25 \times p \times (n - 50)$$
 但し、 $p$ は掲載論文の印刷ページ数で、奇数の場合には1を加えた値、 $n$ は別刷希望部数。
3. 消費税10%がかかりますので、ご了承ください。

## ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器

が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

## 記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
  - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
  - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
  - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
  - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
  - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
  - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

## 『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。

この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円(税込み)のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する 分析化学の豆知識』を堪能できます。

本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性

7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用方法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご利用ください。

本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき 再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきません。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

## 「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日(例：1月号掲載→11月25日締切)となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。ただ、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋(共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。